

425

(坂巻少尉)

の物に過ぎない。今後所謂 recreation などの程度迄伸びて行くものか注目して置く。

真珠湾で武運つるき捕虜と成り、昨午海軍士官坂巻氏は、先に中尉と付へられ、中尉は少尉であるとの事である。

七月十六日(木)

今日始めて、一回のシムが与へられた。中やソール移動に以来最初のシムだ。情ふい事である、今日の日本人中には収容以前の日常生活にシムを常用してゐるものは比較的少数である。幸いふい、昨今の存心巻物の balance されてゐる。食事は、シムを以て補や事が必然的的要求とされてゐるから、好き嫌ひなく、むとほる存心とを揃つてゐる。是非ふい、次である。

(リヒンガストン収容所記事表)

昨午五日発刊の Alexandria Town Talk Daily (タリ) に、中収容所の訪問記が掲載されてゐる。中局では数十部を Canteen store に持ち込め、且つ花送紙をも市丁等に渡へ。一部五仙で販賣してゐる。先には係り兵の競明する処にふと、右新書を家族に郵送すべき便宜を計つてゐる事である。記事の内容は一記者が Colonel Dunn の率にソール、ヤンパ内を巡視し、そので、碼頭坂巻少尉の事(中)に、彼は質問に一切答へず、又明瞭な筆跡で、文法の fair uses にふり rapidly に英文と記

す。筆を起し、収容日本人が最大級に優遇され
つゝあると共に、日本人が秩序整然として、克く法規を重んじ
barackは一兵のつまみもよく顧み、衛生的の起つた
に始り、現状に満足して、数々の喧嘩と争突とを
引起しにぬ。恒来、Interneesの生活に關しては
一切のPublicityは嚴禁されてゐる筈であらうが、報
道が被収容者の満足振りと、待遇の萬全とを
鼓吹しつゝのうちに、却つては通んで之れが其
表と許しつゝのか、或は字句の要求によつてつゝのか
其実は知らぬ。右の記事は、Aと通じ全米
及び日本へも報道される事は疑ひない。尚ほ此に
よると坂巻氏は廿五歳の青年士官だと報ぜらる。

坂巻少尉
捕虜
顛末

坂巻少尉がハワイ襲撃の際不幸にして捕虜におつた
事情につき、當時一二世が通年として尋問の仕方を
たとへて述べられ、其の二世から傳聞したとも、或はラネー
滞在の中一カードから聴いたとも云はれるのだが、次の様に
傳へられてゐる。

真珠湾へ小形潜艦により潜入襲撃後、任務を
果て、一たん港外に出た處を、敵 Coast Guard 船
に見えられ砲撃を受けたが、何等の被害は無く、豫
定の集合地に向つて出たが、不幸に浅礁に
乗り上げ、艦の自由を失つた結果、海中に飛び込め
陸地へ向ひ泳ぎ着いた。然るに海岸には日本の
防備兵が銃を向け少尉と打つてゐたのでら

つたが、何故か射撃を思ひ止まり忽ち捕へられた。他の戦友は中途力盡き溺死の悲運に陥つてしまったといふのである。爾来、少尉に對する監視は頗る嚴重と極め、殊に彼の自殺を最も懼れてゐると、又南島の尋問に對しては一切答へた軍服を着用せしめ銃殺して呉れと、口辭に言つてゐると謂はる。甚ねテネーリルにて、一軍大佐から某日本人interneeに對し、日本軍人の自殺の動機は何んであるかを尋ねに折り、同人は坂巻少尉は軍服を脱ぎ非戦闘員の衣服を着用いつた。現状では、断じて自殺にはおまいと述べてゐる。自來南島に於てもやや安堵はするものゝ如く監視に一人の緩和が見られるに至つた。次上は眞の事實であるや否やは茲に保証の限りではないが、一つのデマとして置いて置とも収容所生活の一風景だと思はる。又曾根からの草履及びタンソール棉襖を採取する。

七月十七日(金)

破損した義齒と切角軍送局で修繕はじけられもつ。今度は口腔に合はず使用する事ができまい。山田少佐から更に交渉の上、直に貫一少佐に於て居るの末に何等の消息かあり。従つて此處約十日間は急事と頗る不便で全く閉口にてゐる。

去つた日のThe Oregonianに東京九日Official Japanese WirelessとてINS接受の報道に依り、昨側交換船伊太利汽船 Conte Verde 号及び浅間丸

日米側交換船

報告